MUSEUM NEWS

2024.10 ▶ 2024.12

没後 30 年 木下佳通代

とき・10/12(土)～1/13(月・祝)

※ 会期中、一部作品の展示替えがあります。

ところ・2階展示室

内容・木下佳通代(1939-1994)は兵庫県に生まれ、関西を拠点に活動した美術家です。大学在学中から作家活動を開始した木下は、制作を通して「存在」に対する思索を深めていきます。1970年代には複数の写真で構成する組作品や、幾何学図形を写した写真の上から線を描き重ねる手法を用いて、視覚と認識、存在と事物の関係性を表現しました。1981年にはドイツで個展を開催し、その後絵画へと軸足を移していきますが、1994年に亡くなるまで、「存在とは何か」という問いに向き合い続けました。本展では、初期から晩年までの代表作を一挙に展示し、生前を通して初となる美術館での回顧展として、作家の全貌を紹介します。

観覧料・一般1000円(800円)、大高生800円(640円)

※ ( )内は20名以上の団体料金
※ 中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料
※ 企画展観覧券(ぐるっとパスを除く)をお持ちの方は、併せてMOMASコレクションもご覧いただけます。
※企画展「吉田克朗展 ―ものに、風景に、世界に触れる」(会期:7月13日～9月23日)の観覧券購入の際にお渡しする割引券提示で2割引。割引券は1枚につき、1名様のみ、1回限り有効で、その他の割引との併用はできません。

木下佳通代《'93-CA786》1993年
油彩、カンヴァス、京都市美術館

《関連イベント》

○レクチャー「展覧会のための調査から見えてきたもの」
講師・大下裕司(大阪中之島美術館学芸員)
とき・10/19(土) 15:00～16:30 (開場は14:30)
ところ・2階講堂／**定員**・80名(当日先着順)／**費用**・無料

○対談 植松奎二(美術家)× 建畠晢(当館館長)
「絵画から写真、そして絵画へ ―存在からも自由になった木下佳通代」
とき・11/3(日・祝) 15:00～16:30 (開場は14:30)
ところ・2階講堂／**定員**・80名(当日先着順)／**費用**・無料

○ミュージアム・カレッジ2024
「「没後30年 木下佳通代」によせて ―絵画、写真を解きほぐす」
企画展にちなみ、埼玉大学教養学部と当館が共催する公開講座です。
①とき・11/30(土) 15:00～16:30 (開場は14:30)
「クオリアからクオリティへ ―色彩と絵画を哲学する―」
講師・高橋克也(埼玉大学大学院人文社会科学研究科教授)
②とき・12/7(土) 15:00～16:30 (開場は14:30)
「木下佳通代 ―その思考と生涯」
講師・佐藤あゆか(当館学芸員)
③とき・12/14(土) 15:00～16:30 (開場は14:30)
「コンセプチュアル・アートとしての写真」
講師・井口壽乃(埼玉大学名誉教授)
④とき・12/21(土) 15:00～16:30 (開場は14:30)
「抽象の想像力 ―女性アーティストの仕事」
講師・中嶋泉(大阪大学大学院人文学研究科准教授)
ところ・2階講堂／**定員**・80名(当日先着順)／**費用**・無料
お問い合わせ・埼玉大学総務部広報渉外課「ミュージアム・カレッジ担当」Tel.048-858-9213

○担当学芸員によるギャラリートーク
とき・10/27(日) 15:00から30分程度
12/15(日) 11:00から30分程度 ※手話通訳付き
ところ・2階展示室
費用・企画展観覧料が必要です。

ミュージアム・レクチャー

◇ビフォー・アフターを越えて ―保存修復の技法と理念
保存修復家の田口かおり氏をお招きして、保存修復の考え方や技法から、当館に寄託されているファン・ゴッホ作品の科学調査まで、「綺麗になったね」では終わらない保存修復の奥深い世界についてお話しいただきます。
とき・11/2(土)14:00～15:30(開場は13:30)
ところ・2階講堂／**定員**・80名(当日先着順)／**費用**・無料
講師・田口かおり(京都大学大学院人間・環境学研究科准教授)

MOMAS コレクション（収蔵品展）

とき・8/31(土)～11/24(日)

※ 会期中、一部作品の展示替えがあります。
前期:10/20(日)まで／後期:10/22(火)から

ところ・1階展示室

観覧料・一般200円(120円)、大高生100円(60円)

※ ( )内は20名以上の団体料金
※ 中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料
※ 11/14(木)は「県民の日」のため無料

モーリス・ドニ《トレストリニェルの岩場》
1920年、油彩、カンヴァス

◇セレクション
モネ ほか

◇旅路の画家
旅をテーマに、スケッチや版画、日本画などをご紹介します。

◇さいきんのたまもの
近年新たに美術館のコレクションに仲間入りした作品をご紹介します。

《関連イベント》

○コレクション・トーク
内容・学芸員が展示作品から1点を選んで解説します。
費用・MOMASコレクション観覧料が必要です。
①とき・9/7(土)15:00～15:30
担当学芸員・松江李穂
作品・文谷有佳里《なにもない風景を眺める》2012年
②とき・9/23(月・祝) 15:00～15:30
担当学芸員・菊地真央
作品・堂本印象《鳥言長者草》1922年
③とき・10/20(日) 15:00～15:30
担当学芸員・篠原優
作品・斎藤豊作《装飾画(蓮と鯉Ⅰ)》1941年

とき・11/30(土)～3/2(日)

ところ・1階展示室

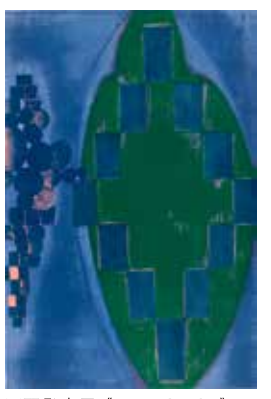
観覧料・一般200円(120円)、大高生100円(60円)

※ ( )内は20名以上の団体料金
※ 中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料

◇セレクション
シャガール ほか

◇特集・木村直道
廃品などを使ってユーモアあふれる作品を生み出した彫刻家・木村直道の世界をお楽しみください。

◇戦後日本美術の開拓者たち
企画展「没後30年 木下佳通代」の開催にあわせ、関西の作家を中心に、戦後日本美術の動向をご紹介します。



辰野登恵子《MAY-25-91》
1991年、リトグラフ、紙

《関連イベント》

○コレクション・トーク
内容・学芸員が展示作品から1点を選んで解説します。
費用・MOMASコレクション観覧料が必要です。
①とき・12/22(日)15:00～15:30
担当学芸員・佐藤あゆか
作品・郭徳俊《クリントンと郭》1993年

ミュージアムショップおすすめ商品

ミュージアムショップでは、2025年のカレンダーを9月中旬から販売予定です。かっこよくてかわいいデザインで人気のD－BROS。今年は商品の全ラインナップが揃っています。人気の「2025こどもカレンダー」をはじめ、生活を楽しむ大人のためのデザインカレンダーは、それぞれにアイデア満載で必見です。毎日何気なく見つめるカレンダー、この機会にじっくり選びませんか。

価格1,430円(税込)～6,050円(税込)

アート体感ワークショップ

MOMAS のとびら

フリープログラム以外は、全プログラム事前予約制です。
当館ホームページからお申込みください。

《11月のプログラム》
11月分のお申込みを10/1(火)から受け付けます。

○親子クルーズ
とき・11/2(土)、30日(土) 13:30～15:00
対象・小・中学生＋保護者／**費用**・500円

○もますまつり ※事前申込み不要
とき・11/14(木) 10:30～12:00、14:00～15:30
対象・どなたでも／**費用**・無料
※「県民の日」に行うフリープログラムの拡大版です。いくつかのプログラムを時間制で数回ずつ実施する予定です。

《12月のプログラム》
12月分のお申込みを11/1(金)から受け付けます。

○フリープログラム ※事前申込み不要
とき・12/7(土) 13:30～15:00
対象・どなたでも／**費用**・無料

○み～っけ！
とき・12/14(土)、21(土) 13:30～15:00
対象・4～6歳(未就学児)＋保護者／**費用**・無料

《1月のプログラム》
1月分のお申込みを12/1(日)から受け付けます。

○フリープログラム ※事前申込み不要
とき・1/11(土) 13:30～15:00
対象・どなたでも／**費用**・無料

○工房
とき・1/25(土) 13:30～15:00
対象・小学生～大人／**費用**・500円

※「親子クルーズ」は、MOMASコレクションか企画展のどちらかに関連した活動を行います。
※ 開催日が複数あるプログラムは、いずれも同じ内容を実施します。複数の実施日にお申込みできますが、ご参加いただくのはそのうち1日のみとなります。また、応募が定員以上の場合は抽選とさせていただきます。
※ 各プログラムの実施時間等は変更になる可能性があります。詳しくはホームページをご覧ください。

「MOMASのとびら」のページ
https://pref.spec.ed.jp/momas/MOMASのとびら

一般展示室（地階）

※ 日程・内容は変更される場合があります。最新の情報は各主催者へお問い合わせください。
※ 展示により開室時間(特に最終日の終了時刻)が異なります。

◆10/1(火)～10/6(日)
公募第56回第一美術協会埼玉支部展 …… 一般展示室1
第57回埼玉三軌展 …… 一般展示室2・3
第12回ＪＲＰ浦和支部展 …… 一般展示室4

◆10/8(火)～10/13(日)
第20回水彩連盟埼玉西支部展 …… 一般展示室1
第25回地平展 …… 一般展示室2
第39回アート現宇展 …… 一般展示室3
第40回渓水会展 …… 一般展示室4

◆10/15(火)～10/20(日)
現代中国芸術国際交流第6回目 …… 一般展示室2
第33回旺玄会埼玉支部展 …… 一般展示室3
全日写連浦和支部写真展 …… 一般展示室4

◆10/22(火)～10/27(日)
第45回太平洋埼玉展 …… 一般展示室1
悠友展 …… 一般展示室2・3

◆10/22(火)～11/3(日・祝)
ヨシズミトシオ展 …… 一般展示室4

◆10/29(火)～11/3(日・祝)
キルトリーダーズ埼玉パッチワークキルト作品展2024 …… 一般展示室1
現代アート「実験02展」…… 一般展示室2
第42回キヤノンフォトクラブ浦和写真展 …… 一般展示室3

◆11/5(火)～11/17(日)
2024ＣＡＦネビュラ展 …… 一般展示室1～4

◆11/20(水)～11/24(日)
第63回埼玉県高等学校書道展 …… 一般展示室1～4

◆11/27(水)～12/1(日)
第67回埼玉県高校美術展 …… 一般展示室1～4

◆12/3(火)～12/8(日)
第15回埼玉県障害者アート企画展 …… 一般展示室1・2
2024阿佐見昭彦写真展《ＡＲＣと共に》…… 一般展示室3
第3回グループエスポワール絵画展 …… 一般展示室4

◆12/10(火)～12/15(日)
第58回全日本書道芸術展 …… 一般展示室1・2
何気ない日々の一期一会(Ⅱ) …… 一般展示室4

◆12/21(土)～12/22(日)
第59回「郷土を描く児童生徒美術展」…… 一般展示室1～4

美術館の舞台裏

企画展出品作家の「その後」―Nerhol（ネルホル）

グラフィックデザイナーの田中義久と彫刻家の飯田竜太が2007年に結成したアーティストデュオ、Nerhol。人物の連続写真を重ねて彫るポートレート作品で注目を集め、以後リサーチの対象を広げながら、独自の作品世界を深化させ続けています。当館では2020年に開催した企画展「New Photographic Objects 写真と映像の物質性」の出品作家としてご記憶の方もいることでしょう。

しかしこの企画展は、新型コロナウイルス感染症の流行拡大による臨時休館が続く中で予定の開幕日を迎え、展示作業が完了していたにもかかわらず再開館の見通しが立たないという異例の展覧会でした。観客の目に触れることなく展覧会が終わる事態すら危惧されるなか、Nerholの二人は新たな作品を制作し、自分たちの展示を更新していったのです。このとき制作された新作のひとつが、大豆の花をモチーフにした《Soybean》[図1]です。

[図1]

大豆は日本人の食文化と強く結びついた作物ですが、その自給率は低く、需要の大部分をアメリカなどからの輸入に頼っています。しかし第二次世界大戦前は中国東北部が最大の生産地で、アメリカやヨーロッパは大豆の輸入国でした。激動の社会情勢とさまざまな思惑が種のダイナミックな移動を促し、大豆はアメリカに帰化し根付いたのです。Nerholは人流・物流が極端に制限されたコロナ禍において、まさにその人やモノの移動にともなって国境を越え、新たな土地に順応していく植物の生態に着目して作品化しました。混乱した状況に直面しながらも、異なる視角から世界をみつめ、作品によって目の前の現実に応答しようとする姿勢は、Nerholの制作行為のしなやかな勁さを示すと同時に、展覧会担当者を大いに勇気づけるものでした。

[図2]

[図3]

この《Soybean》から帰化植物―自生地から持ち込まれ日本国内の環境に適応し、野生化した外来植物―をモチーフにした作品制作が開始され、現在も継続される主要なシリーズ作品になっています。このシリーズでは、身の回りにありふれ見過ごされてしまうようなものも含む、さまざまな帰化植物をとりあげ、種の移動をもたらした社会状況やその歴史的背景にリサーチを加え、そこに隠された多層的な関係をひもといていきます。綿密なリサーチや対話を重ね、見えざる関係性や忘却された物語を作品によって彫り起こしていくというのが、現在のNerholの制作の特徴といえるでしょう。直近の太宰府天満宮での個展[図2・3]においても、天満宮ゆかりの梅が中国からの外来種であることなどを起点に、天満宮にまつわる歴史や信仰のありようを丁寧に掘り下げ、時間と空間を行き来するような重層的な展示が構成されていました。

こうした近年の制作を一堂に紹介する展覧会が現在開催中です(「Nerhol 水平線を捲る」千葉市美術館 会期:2024年9月6日～11月4日)。過去の主要作品から開催地でのリサーチをふまえた新作までを展観する大規模個展は、まさにキャリアの充実期を迎えているNerholの歩みと現在地を確認するまたとない機会となるでしょう。そして、このミッド・キャリア・レトロスペクティブを経た新たな展開を、ここ埼玉で紹介する準備も少しずつ進行しています。ぜひご期待ください。(O.I.)

[図1] Nerhol《Soybean》2020年 インクジェットプリント ©Nerhol 撮影:山中慎太郎(Qsyum!)
[図2] Nerhol《Prunus mune (Flying mune)》2024年 インクジェットプリント ©Nerhol 撮影:市川靖史
[図3]「Tenjin, Mune, Nusa」大宰府天満宮宝物殿(福岡)展示風景 2024年 ©Nerhol 撮影:市川靖史

新任学芸員紹介

どうぞよろしく!

このコーナーでは、新しく着任した学芸員を紹介します。この春から新たに2名の学芸員が当館に加わりました。今回は西尾真名(にしおまな)さんに、これまでの経歴や活動について伺いました。

中学生くらいから展覧会に行くことが少しずつ好きになり、作品のそばにいる仕事をしたいと思い始めました。高校生の頃から学芸員になりたいと考えるようになって、大学では美術史を学びました。

今年の3月まで、小金井市立はけの森美術館に3年間勤務していました。洋画家の中村研一を記念する小さな美術館です。非常勤でしたが、興味のあることを自由にやらせてもらえる環境でした。収蔵品のなかには中村研一による戦争画の下絵もかなりあって、それを研究したりもしていました。もともと高校生のときに藤田嗣治の回顧展を見たことがきっかけで、戦争画に関心があったんです。絵を見て怖いと思った記憶が今でも残っていますね。戦争画についての言説を読んでいくと、絵画がイデオロギーで語られていたりするのが興味深いです。大学院では岸田劉生を研究して、劉生が具体的にどのような宗教的主題を扱ったのかを旧約聖書と突き合わせて調べたりしていたのですが、回り道してまた戦争画に戻ってきたような感じですね。

埼玉近美の展覧会では、「インポッシブル・アーキテクチャー」展が印象に残っています。図版や模型によって、実現しなかった建築へのイメージが頭の中に立ち上がってくる企画でした。それから、「原田直次郎」展も面白かったです。ドイツでの調査の話を聞いて、展覧会が出来上がるまでの奥深さを知りました。

実際に中で働いてみたら、仕事が分業されているのが新鮮でした。これまで小規模な美術館ばかりで働いてきて、裁量に任されて色々な仕事をやっていたので、役割が決まっていると効率的だなと。逆に、外からは見えない苦労があることを中に入って初めて知った面もあります。

休みの日には映画鑑賞や登山を楽しんでいます。前の勤務先で丸山晩霞の展覧会を担当して、山を描いた作品について調べているうちに、自分も登ってみたくなって。今は低山をトレッキングしていますが、いずれ景色の綺麗な高い山にも行きたいです。

今後、学芸員として取り組んでいきたいことは模索中なのですが…。今は美術館そのものを考え直すような展覧会が多くありますよね。私もこの美術館をどう見せていくことができるのか、初心に返って考えてみたいと思います。美術館はものを見せる場ですが、美術史のなかでは失われたものもあるのは大前提です。壊されたり隠されたりしたものにどういう力学が働いていたのか、思いを馳せるような展示がいつかできたらいいですね。埼玉ゆかりの作家についても勉強していきたいです。

西尾さんは今年度から常設展・収蔵品担当として活躍中です。今後とも、「どうぞよろしく！」(聞き手:S.Aya.)

※ **本紙記載の展覧会やイベントは、変更・中止となる場合があります。ご来館前に当館ホームページで最新情報をご確認ください。**

埼玉県立近代美術館 The Museum of Modern Art, Saitama

所在地・〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 9-30-1
TEL・048-824-0111 **FAX**・048-824-0119 **MAIL**・p240111@pref.saitama.lg.jp
開館時間・10:00～17:30 (展示室への入場は 17:00 まで)
休館日・月曜日(9/16、9/23、10/14、11/4は開館)、12/27～1/3
入館料・無料 **観覧料**・上記をご覧ください。

交通・JR京浜東北線 北浦和駅西口より徒歩3分(北浦和公園内)。
※当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「タイムズ 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります。
お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。
ただし、台数に限りがありますので、事前にご連絡をお願いします。

美術館ホームページ

彩の国 埼玉県 ©埼玉県2005
モバイルSuica JR
いつでもどこでもカンタン便利！
定期券を買うなら、モバイルSuicaで！

発行・埼玉県立近代美術館 **編集**・佐伯綾希／佐藤美絵 **原稿執筆**・(S.Ayu.) 佐藤あゆか / (M.R.) 松江李穂 / (O.I.) 大浦周 / (S.Aya.) 佐伯綾希 **広報協力**・JR 東日本大宮支社